㈱シード・プランニング
2010 年 12 月 8 日

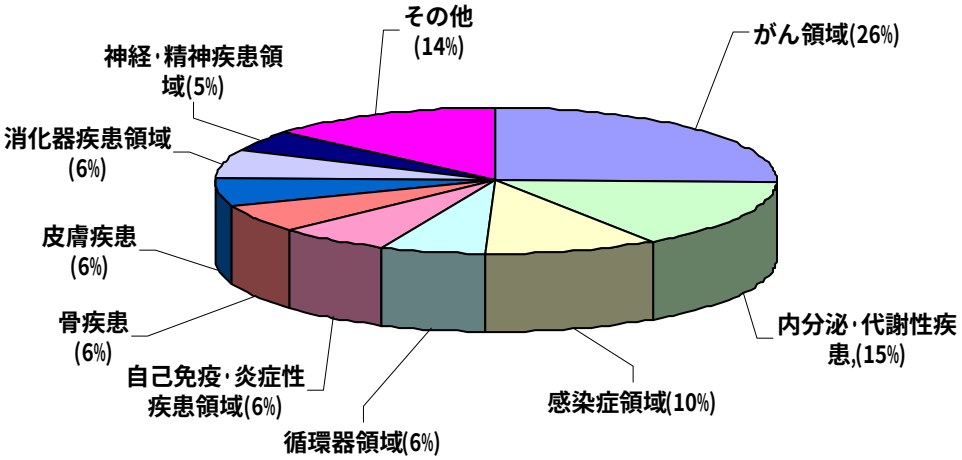
【調査結果速報】

世界におけるペプチド医薬品の開発動向と市場展望とは

シード･プランニングではバイオ医薬品の中でも多様性に富み、大きな市場を形成すると期待されているペプチド医薬品について、世界での開発動向や技術動向、市場展望を調査しました。なお、本調査結果は 2010 年 11 月 30 日発刊の「世界のペプチド医薬品開発の現状と将来展望～医薬品としてのペプチドの今後の方向性～」にまとめられています。

①ペプチド医薬品の開発対象疾患領域は多岐にわたる

ペプチド医薬品の開発対象疾患領域は、バイオ医薬品に多い「がん領域」だけでなく、「内分泌･代謝性疾患」や「感染症領域」など幅広い。また、近年では「自己免疫･炎症性疾患」や「皮膚疾患」、「消化器疾患」における開発候補品数が増加している。

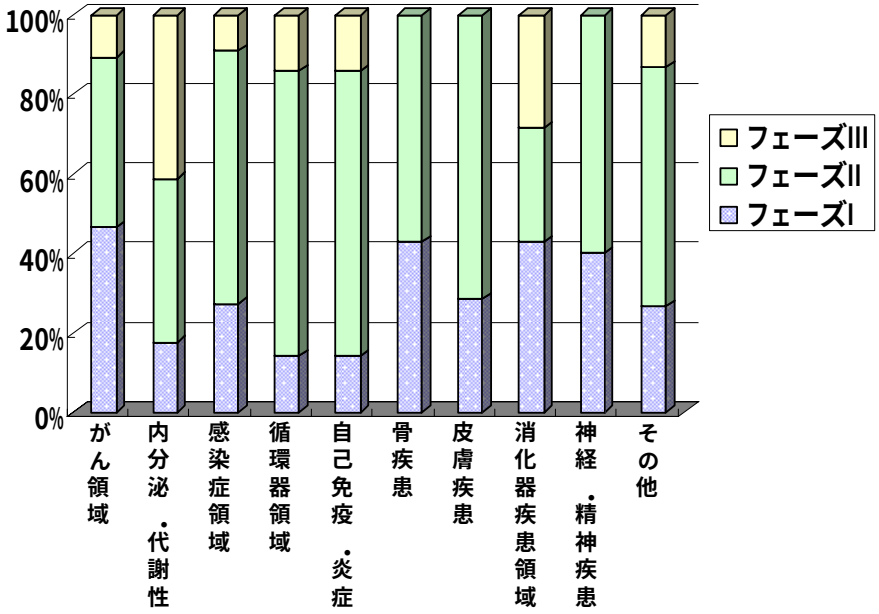


図．開発されているペプチド医薬品の対象疾患領域（フェーズⅠ段階以上のものを対象）

無断転載･ 複写等の禁止

②後期開発段階のペプチド医薬品が多い

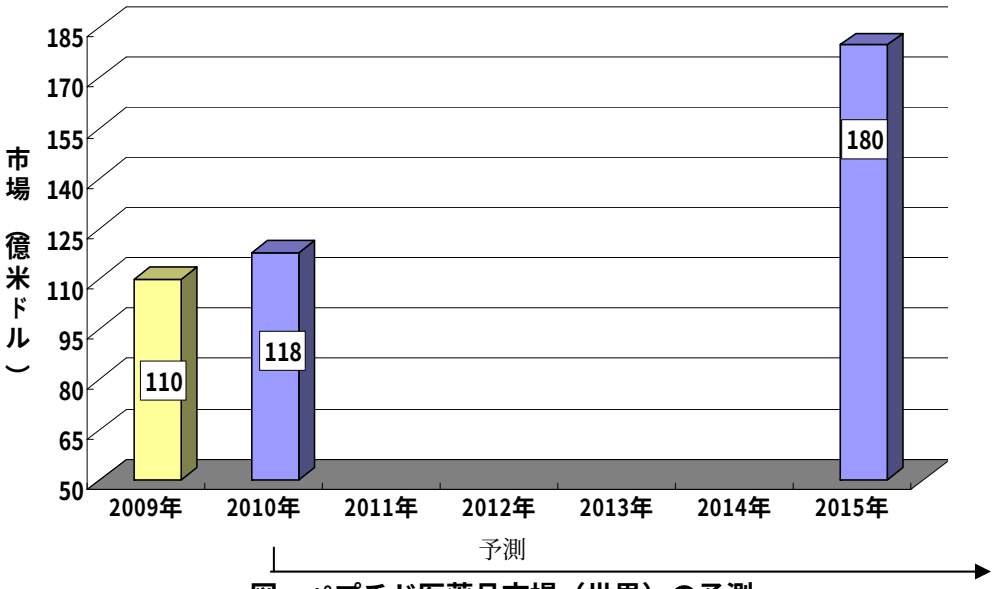
現在、臨床試験が進められているペプチド医薬品は 100 種類以上あるが、フェーズ IIb やフェーズ III など開発後期段階の候補品も多い。ペプチド医薬品はフェーズ I～上市までの平均開発成功率が 20～30%で推移しており、今後、複数の新規ペプチド医薬品の上市が期待される。



図．疾患領域別の臨床試験段階における開発候補品の分布

③ペプチド医薬品市場は年率 10%前後で順調に成長

2009 年度のペプチド医薬品の世界市場はおよそ 110 億米ドルである。今後、既存薬の売り上げ増加と現在開発中の新薬の上市によって市場成長がさらに拡大、2015 年のペプチド医薬品市場はおよそ 180 億米ドル（2009 年度比 160%超）まで成長すると予測した。



図．ペプチド医薬品市場（世界）の予測

無断転載・複写等の禁止